

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立伊香立小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語科において、読み取った内容から目的に応じて必要な情報を整理したり、情報と情報を関連付けたりすることができるかをみる設問では正答率が80%以上であり、全国平均を上回っていました。しかしながら、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えを書いたり、考えが伝わるように工夫したりすることができるかをみる設問では正答率が特に低く、全国平均の半分程度となっていました。

算数科においては、数量の関係を読み取り、立式する設問や「速さ」の意味について理解し、考察する設問では全国平均を上回っていましたが、計算に関して成り立つ性質を利用することや、立体の特徴を理解し、自分の考えをまとめる設問については全国平均を大きく下回る結果となりました。

児童質問紙では「規範意識・自己有用感」に関する項目に肯定的な回答をする児童が多く、全国平均を大きく上回りました。なかでも「自分にはよいところがある」「学校に行くのが楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」等の項目では、肯定的な回答を選択する割合が非常に高い傾向にあります。

また、家庭での過ごし方について、1日あたりのゲーム時間について全国平均を大きく上回っており、平日でも1日に3時間以上ゲームをしている児童が半数以上いることがわかりました。

《強み・弱み》

今回の調査において、無解答率0%の設問が8割であったことから、最後まで問題を解こうと努力する児童が多く、今までの学習を生かし、粘り強く課題に取り組める強みをもっていることが分かりました。

ICTの活用等の項目で肯定的な回答が全国平均を上回っています。授業ではiPadを活用し、自分のペースで楽しみながら学習を進めたり、わからないことがあったらすぐに調べたりする姿勢が身についてきており、ICTを活用して子どもたちが主体的に学ぶ姿がよく見られるようになりました。

国語、算数ともに書かれている内容を読み取り、適切なものを選択できている解答も多くあったことから、基礎的な学力は定着しつつあることが分かります。しかし、記述式での解答については自分の考えを適切に記述する力や相手に分かりやすく伝えるために表現を工夫することに弱さが見られました。

「将来の夢や目標がある」「人の役に立つ人間になりたい」「学習は将来、社会に出た時に役に立つ」といった将来に関わる質問項目で肯定的な回答が大変多く、高い自己有用感とともに将来への生き方についても考えることができる強みがあることがわかりました。

【指導の充実に向けて】

- ・本年度取り組んでいる国語科の授業研究を一層進め「書く」活動へ慣れ親しむために、学習の振り返りや作文など、書く活動を授業に組み込む工夫をします。また、読書活動を活発化させることで様々な文章に触れる機会を設け、語彙力を豊かにし、優れた文章表現を学ぶための工夫をします。
- ・算数科では自分の考えや答えを導く手順を、図や表、文章で書き表す学習活動を積極的に行います。筋道を立てて考えることや分かりやすく伝えるための工夫ができるように授業づくりをすすめます。またICT機器を適切な場面で活用し、主体的に学ぶ姿勢を高めていきます。
- ・高い自己有用感を大切にするため、伊香立の地域教材を取り入れた学習を充実させ、地域や家庭も含めた関わりを通して、伊香立を愛し、誇りに思う気持ちを養い、豊かな心の育成を図ります。